

# 附け祭

つけまつり

DATE

5月13日(土) 14:45頃～

少彦名命御奉祀150年記念  
だいこく様・えびす様・  
少彦名命曳き物

神田明神二の宮の御祭神・少彦名命が祀られて150年を迎えたことを記念して、だいこく様・えびす様そして少彦名命の曳き物が神幸祭に初登場！



※イメージです

趣向を凝らした  
ユニークな行列は  
江戸時代から大人気！

江戸時代に行われていた神田祭で、最も人気があった附け祭。当時流行した能や浄瑠璃などを題材に取り入れ、踊屋台や曳き物、仮装行列で表現した。趣向を凝らした出し物は今も昔も祭りを楽しむ人々の注目の的だ。

明神賞受賞で登場

ジンベエザメ

令和4年の東京藝術大学の藝祭で行われた御興コンテストで明神賞を受賞した日本画・工芸・邦楽・楽理の学生たちによる曳き物。サンパチームとともに秋葉原・神田明神通りを練り歩く。



勇ましい一隊が行進  
相馬野馬追騎馬武者9騎

神田明神の御祭神・平将門公の意を継ぐ、「相馬野馬追」の騎馬武者行列が福島県南相馬市から特別参加。騎馬武者たちが都心を練り歩き、勇壮な姿を披露する。

相馬野馬追とは



1000年以上前、平将門公が下総国において野馬を放ち、敵に見立てて行った軍事訓練が起源とされる。今もなお、平和と安寧を祈る神事として、福島県相馬地方の人々により伝えられている。

今昔問わず  
人気の物語  
浦島太郎

江戸時代の神田祭で出された浦島太郎を、平成27年にアニメ調のデザインで復活。昔ながらの浦島太郎の歌をバックに、仮装行列や曳き手の子供たちとともに賑やかに練り歩く。



美しい和髪と着物姿の行列  
自分結い大江戸和髪学会

和と輪を重ねる心で、自分で結う和髪と着物と盆踊りを通じて、日本の伝統文化を未来にそして世界に繋げるべく日々活動。きらびやかな着物を身にまとい練り歩く。



文京建築会ユースと銭湯山車巡行部の  
コラボ山車  
銭湯山車



消えゆく都内の銭湯から引き取った物品を再構成した「山車」。今はなき銭湯を弔い、今を生きる銭湯を壽ぎながら、カランから出る湯水でまちを清める。

附け祭 参加団体

【全巡行路参加】

●太神楽

【中央区有馬小学校より参加】

●相馬野馬追騎馬武者行列

●稚児太鼓

●花咲か爺さん曳き物と練物

●浦島太郎曳き物

●神田一橋中学校生徒(有志)

●有馬小学校生徒(有志)

●BKY+銭湯山車巡行部

●自分結い大江戸和髪学会

●至善館

【秋葉原より参加】

●東京藝術大学「ジンベエザメ」曳き物

●東京藝術大学サンパチーム

●ボーイスカウト千代田第六団

●万世橋交通少年団

●神田消防少年団

附け祭とは？

江戸時代の神田祭で

最も人気があった行列・附け祭。  
現代に復興しても人気は変わらない！

江戸時代の神田祭には、各町より華麗な山車が36番組45本前後も出され多くの人々をひきつけた。しかしそれを凌ぐほどの人気があったのは「附け祭」といわれた出し物であった。附け祭とは、曳き物と呼ばれた巨大なはりぼての人形や様々な衣装を身にまとい流行の音楽を奏でながら行列に参加した踊り子などのことをいい、毎回違う出し物が出されたため多くの見物人を楽しませた。

現代の神田祭でも、様々な附け祭を出し話題を呼んでいる。今回は少彦名命御奉祀150年を記念した曳き物をはじめ、「浦島太郎」の曳き物、「花咲か爺さん」の曳き物と仮装、「ジンベエザメ」の曳き物、「サンパ」などが出される予定。いつの時代も流行を先取りした附け祭は人気である。



昔話を題材にした仮装行列  
花咲か爺さん

平成25年より登場。「ここ掘れワワン」の台詞で有名な昔話の一つで、江戸時代の神田祭の絵巻物にも描かれている。



多彩な曲芸は注目すべき

太神楽

江戸幕府が費用を負担して出された御雇祭として天下祭のみに許された太神楽を現代に甦らせ披露。



- 少彦名命御奉祀150年記念曳き物、浦島太郎、花咲か爺さん、太神楽など
- 相馬野馬追騎馬武者行列
- 東京藝大曳き物など